京都「被爆2世・3世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０－２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*(Atomic Bomb Survivors)

４月９日（木）の例会

例会会場のラボール京都会議室には新型コロナの影響もあって７人の参加でしたが、初めて試みたＺＯＯＭ会議参加者が５人あり、合わせて１２人で開催した例会となりました。

２０２０年度総会延期のお知らせ・２０２０年度会費お支払いのお礼とお願い　２
被爆２世・３世健康調査アンケートとりくみのよびかけ　３
４月９日（木）初めてＺＯＯＭを使った例会を開催　～　参加者の感想　４
新型コロナウィルスにどう向き合うか　～　例会での話し合いの報告　６
核兵器禁止条約発効めざして　ナミビア共和国が批准　３６ヵ国目　１７
会員から会員へ@みなさんからのお便り紹介　１８
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　２２
「自衛隊も米軍も日本にはいらない」「兵器を買わされる日本」
SCRAPBOOK／　「夕凪の街の世界へ－改札前にステンドグラス」（中國）　２３
編集後記　２３
２０２０年５月の行事カレンダー　２４

別冊

被爆体験の継承（８０）　呉海軍工廠から見た原子雲　斎藤綾子さん

4月18日（土）に予定していた2020年度年次総会は
新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮して
延期しました。
より多くの会員のみなさんが参加できる状況になってから
あらためて総会を開催いたします。
その際はご出席よろしくお願いいたします。

２０２０年度年会費お支払い
及び『語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心』出版・初期費用拠出金
へのご協力ありがとうございます。

出版初期費用拠出金はこれまでに 18 人の方々から 423,000 円のご協力をいただいています。

会費お支払いまだの方は以下のようによろしくお願いいたします。

京都「被爆２世・３世の会」の会計年度は４月１日～３月３１日です。
２０２０年度会費のお支払いをお願いします。年会費は２，０００円です。

■ **振込でお支払いいただく場合は以下のいずれかからお願いします。**

郵便振替　記号０１０７０－６　番号４７８７０
加入者名　京都原水爆被災者懇談会

京都銀行四条支店　店番 111　口座番号 447963
口座名　京都原水爆被災者懇談会　振込いただいたらご一報ください。

■ **京都原水爆被災者懇談会の事務所（京都原水協の事務所）ラボール京都５階でも受付いたします。**

- 複数年のお支払いもしていただけます。
- 年会費とは別に活動援助金（カンパ）のご協力もお願いしています。

「被爆２世・３世健康調査アンケート」とりくみのよびかけ

昨年来の課題であった「被爆２世・３世健康調査アンケート」のアンケート用紙が出来上がりましたのでとりくみのよびかけをいたします。

アンケート用紙は同封しています。

２４ページたてのやや長文ですが、まず会員のみなさんへは一読していただくことからお願いします。

このアンケートの構成は以下のようになっています。

一つは、これまで被爆２世・３世の健康問題で明らかになっている具体的な状況を、いくつかの文献や資料から紹介し、それに沿って、みなさん一人ひとりが自らの半生を振り返りながら、同じ体験などされている場合はチェックを入れていきます。

もう一つは、紹介した文献・資料には出てこない体験をされている場合は、その状態をフリーに書き込んでいただきます。

このアンケートは全国の被爆２世・３世のみなさんに広くよびかけていきたいと思いますが、まず京都「被爆２世・３世の会」の会員のみなさん自らが回答していただくことをお願いします。
とりくみの趣旨は表紙メッセージに掲げていますように「あなたのことを聞かせてください」です。

その上で、会員以外の被爆２世・３世の方に一人でも二人でも協力をお願いし、より多くの回答参加者で成り立つアンケート活動にしていって下さい。

このアンケート活動の回答者は少なくとも１００人を目標にしています。

中間的な集約を行いつつ、２０２０年度１２月末を最終的な回答集約にしていきます。

日頃から情報交換や交流のある全国の「被爆２世・３世の会」のみなさんにも協力をお願いしていきます。

質問・ご意見は遠慮なくお寄せください。

ステイホーム状態を余儀なくされている方も少なくないと思いますが、この機会をこのアンケート回答に是非活用していただけたらと思います。

以上よろしくお願いいたします。

被爆2世・3世と、そして未来世代の健康を守るために
あなたのことを聞かせてください
被爆2世・3世健康調査アンケート
2020年
京都「被爆2世・3世の会」

４月９日（木）初めてＺＯＯＭを使った例会を開催

４月９日（木）の例会は、初めてＺＯＯＭを使って行いました。ＺＯＯＭとはパソコンやスマホを使ったオンラインの会議等のシステムです。ラボール京都の会議室会場には７人の参加者、そして自宅や職場からＺＯＯＭを使って参加した人は５人、合わせて１２人の例会になりました。遠くはインドのチェンナンに住んでいて現地の日本語学校に勤めている竹下さとみさんもＺＯＯＭで参加、オンライン会議の威力を感じました。

次回（５月１４日／木）の例会もＺＯＯＭを活用して行います。当日会場に来られない方も、パソコンやスマホを使っておられる方は是非チャレンジ、参加して下さい。

詳しいことは後日あらためてお知らせいたします。

今回ＺＯＯＭで会議参加されたみなさんの感想を紹介します。

●小林孝企さん（宇治市）

先日は、ＺＯＯＭでの会議を初体験させていただきありがとうございました。自室からの参加でしたので音声だけでの参加で失礼しました。
会議の資料も事前に送付いただいていたので参加でしたので、参加者の発言に集中できて良かったです。それに何よりも守田さんの途切れさせない進行で間延びなく楽しく参加できました。

１０年ほど前に一方的な説明会的なテレビ会議の経験はりましたが、会議参加者の声も聞き発言もでき会議の場に参加しているのと変わらない感覚で参加てきました。有難うございました。

●有地淑羽さん（京田辺市）

例会への参加、いつもはご無沙汰していて申し訳ありません。今回、ネットでの参加の機会を準備下さりありがとうございました。こちらも初めてのことで不慣れなことでした。サインをだして発言を求めることや会場と会話を楽しむことも、また慣れてくれば出来るようになるかとも思います。

時間が夕食時だったもので、少しカメラを移動させて皆様のお話を、頂いたばかりの筍の煮物を食べながら聞いておりました。会議の空気とこちらの日常との折り合いを次回からは工夫したいと思います。時々はこういう機会を作って頂き、ミニ学習会と会員の感想と近況報告交流などあれば参加したいと思います。

どうぞ皆様、健康に気を付けてお過ごしください。またお目にかかれることを楽しみにしています。

●倉本史陽さん（右京区）

ＺＯＯＭを使用しての例会はとても良い体験でした。職場の会議にもＺＯＯＭが使用され始めていることもあり、タイミングも良かったです。

まさか、インドから参加があるとは想像もしていませんでした。

５月も職場の会議と重なるため、ＺＯＯＭでの参加になります。

ただ、１、２点改善できればと思う点もありました。会議室の全員を映すのは困難だと思いますが、音声については会議用のマイクの利用で改善できると思います。ＰＣから遠い人の声が少し聞き取りに難いところがありました。マスクの影響もいくらかあるとも思いますが。会の運営費で購入できないか検討をお願いします。

例　→　https://kakaku.com/item/K0000766102/

●矢ヶ崎響さん（北区）

例会自体に参加したのは、３年ぶりぐらいだと思います。出産後、なかなか夜の会議には参加しにくかったのですが、ＺＯＯＭのおかげでやっと参加できました。途中、子どもがお風呂から出てきたりして内容がしっかり聞けなかった部分もあったのですが、久しぶりに皆さんの顔が見れてよかったです。（子どもも興味津々で画面をのぞき込んで失礼しました笑。）

この状況の中、優先順位の一番は感染防止なのですが、そのなかでどう人とつながり、文化的な生活を維持していくか、創意工夫や新たな試みが必要だな、と感じています。保育園の保護者会でも、ＺＯＯＭで会議をしたり、ネット上で交流できる場を模索したり…。コロナの病気自体ももちろんですが、自粛で殺されることのないようにしたいものです。

大変な中ですが、皆さん一緒に乗り越え、生き延びましょう！

●**米重節男**さん（向日市）

新型コロナ感染症で、三密を避けるように言われ、いろいろな取り組みがほとんど取りやめになってしまいました。その時に、オンライン会議を体験して、新たな手段を使って事態を打開できることがあると実感しました。遠い人や、なかなか会議に出かけられない人も参加して、意見交換できたのは非常に良かったです。遠く、インドからも参加してもらって、現地の様子を直接聞くことができたのは、これまでにない成果だと思いました。

在職中の１９９０年代に、会議のたびに本社以外の人は、交通費と移動時間を余分に使って大変な負担になる。何とかできないかと、テレビ電話による方法を模索したことがありました。試算したらイニシアルコストもランニングコストも非常に高くて、断念した経験があります。今だったら、今回の方法で解決できるでしょう。技術の進歩を感じます。今回の感染症対応で、この方法が一般的になって世の中が大きく変わるように感じました。

●**竹下さとみ**さん（インド・チェンナン在住）

２０１８ 年１０月、インドへ出発した時は、まさかインドから２世３世の会に出席できるとは、夢にも思っていませんでした。Zoom が繋がって、久しぶりにみなさんのお元気そうなお姿を拝見したら、ほっとしました。インターネットの接続状況にもよると思いますが、私の場合は音もクリアで、皆さんのお顔もよく見えました。例会に行きたくても行けないという場合でも、パソコンかスマートフォンがあれば、どこからでも、また、短い時間でも参加できるのはとても便利だと思います。使い方はそれほど複雑ではありません。また、Zoom を利用しての企画も考えられそうです。

４月の例会では、コロナウイルスのトピックもあり、みなさんが直面している問題をうかがえたことは貴重でした。一人ではなかなか想像が及ばないことを知ることはとても大切なことだということに気づかされました。

オンラインで例会に参加できるチャンスがあればぜひ、参加してみてください。もっと多くの会員さんが参加され、より活気ある会になることを願っています。

新型コロナウィルスにどう向き合うか

２０２０年４月９日（火）例会での話し合いの紹介

４月９日（火）の例会では総会の延期を決めた後、新型コロナウィルスと感染拡大防止対策について、どう思っているか、感じているかを、参加者それぞれの率直な思いを出し合い、話し合いました。以下に紹介します。

■専門家会議の意見がみんなの基準になれば

守田敏也さん（左京区）

ここロナの件については、みんなすごくしんどい思いをしていて、独特のテンションがあるので一つの考えだと思って聞いていただけたらと思います。これが正しいということではなく。「僕はこんなふうに思っている」と言うことです。

僕は当初から中国から出されている論文をかなり読んでいました。それで最初は、「あれ、これはただの風邪だろう」と思いました。致死率もそんなに高くない。なんでこんなに騒ぐのかなと思っていたら、「あ、人が病院に押し寄せると医療崩壊しちゃうのだ」と気づきました。武漢でそういうことが起こった。だから日本でも医療崩壊させちゃいけない、そう考えて積極的な発信をしてきました。

その際、僕は政府の専門家会議の言っていることが、みんなの意見の集約の場としてはいいのではないか思ってきました。僕自身は、コロナはもう少し怖くないものだろうぐらいに思っていましたけれど、人々の間に、すごく意見の幅があるので、みんなが何となく拠り所にできるものがあると良いと思い、専門家会議の言っていることをトレースして、それをブログで出すなどしてきました。

ところが左の人というか、僕の周りにいる人たちが、安倍政権に対する不信の頂点でこの問題に入ってしまったために、安倍政権と専門家会議を分けて見れない。「安倍首相も専門家会議も、オリンピックをやりたいために、ＰＣＲ検査をわざとやらないで感染者を隠しているのだ」となってしまいました。日本では、今日までの死者数が１０５人になっていますが、これにも「本当の死者数は隠されているのだ」などと言って、「もっと検査しろ、もっと検査しろ」と、ワァーッとなってしまっている。

僕は一貫して、「検査をあんまり進めると、病院にいっぱい人が来てしまうので危ない」と言ってきました。特に８割から９割は軽症者か無症状の方なので、その方たちで感染病棟を埋めてしまうと極めてまずい。重症者が診られなくなってしまいます。このコロナが始まった時の日本の感染症病床は全国で１，７４８しかなかったのです。またＰＣＲ検査は、行って陽性であることが分かっても、治療方針は変わりません。特効薬がないからです。だから肺炎かどうか、またどこまで進んでいるかをＣＴスキャンで観るのと一緒にしていくのがいいのでは、ぐらいに思っていました。

だけどいま、「ＰＣＲ検査をもっとやれ」という声が高まるなかで、今度は「緊急事態宣言」が出てきましたよね。僕はこれは「民主主義にとっておかしい」と思って反対しました。でも法律ができるときには、反対の立場に日本共産党がいて、

山尾志桜里さんが立憲民主党を脱党して反対するとか、れいわ新選組も反対してましたけれど、「緊急事態宣言」が実際に発せられたら誰も反対しなかった。

僕は、専門家会議が「緊急事態を発するほどのことではない」と言っていたことも支持してきたし、もっとこの事態は、民主的に超えていけるのではないかと思っているのです。でもほとんどの人、とくに左の人が、どれぐらいかは分からないけれども、専門家会議を信用しないとなってしまっている。その点が恐いですね。しかもそれで、「コロナをうつしちゃいけない」とテンションがあがっている。もちろん、うつらないしうつさないための努力はすればいいのだけれど、なんだか人々が、凄くしんどいことに突っ込んでいってしまっているんじゃないかな。

やっぱりウィルスの特性から言っても、「絶対にうつらないしうつさない」というのは無理なんですよ。お医者さんだって、パカパカかかってしまっている。それをみて、さらに怖くなってしまって、「それなのに安倍政権はなんだ、なんでもっとやらないんだ、もう日本は本当は感染大爆発なんだ」みたいな形になってしまっている。これに対して、「もうちょっと落ち着いて話そうよ」というぐらいのトーンで僕はやりたいと思っています。

専門家会議によると京都は第二分類ですよね。第二分類は「５０人以上の集会は遠慮してくれ」と言っていたので、私たちの総会はギリギリありかなと思っていたのですけど、先ほどの総会延期の提案でもあったように、人々のワァーッという流れがある中で、それとガチに喧嘩してやるというのはあまりいいことじゃないだろうと思いました。みんなの中の対立を生んでしまうので。実際メンバーの中に来られないという方も多いわけだし、開催に反対だという方もおられるわけだから、それはみんなで合意して、「集ってよかったね」とやれるときを待った方がいいと思います。

ただ、元々僕が、みんなの基準になるといいなと思っているのは、先にも述べたように、「専門家会議の言っていること」なので、だから「京都も小学校など開いたらいいのにな」と思っています。学童はどうせ開けているのですものね。学童で子ども同士うつったり、親にうつったりしたことはないですしね。だけれども、特に原発事故避難者の人々などは、政府が信用できない。散々騙されてきたわけだし、また酷い目にあわされるのではという気持ちがあります。それはもうよく分かります。だから僕に意見を求められれば「開けて良いと思うよ」と言うけれど、「反対するのはいけないと」とは今は言わないで、「いろんな考え方があるね」と話していくことが事かな。

みんなでこういう状況の中で、世界が一つのことで一緒に問われているような時代で、Wake up call とも呼ばれているのですよ。お目覚めコール。だから、できるだけいろんな意見が言えるような場、ヒートしてしまわないで安心して話せる場を作ることが大事かなと思っています。

■専門家会議の意見も安倍首相が言うと・・・

米重節男さん（向日市）

志村けんさんが亡くなったことで、あれで一気にバァーッとコロナの問題を身近に感じた人が増えたのではないか。それまでは他所の人の話と捉えていた人が多かったように思う。専門家会議で言われている話は確かに説得力があると聞いていて思います。それを安倍首相が言うと何か変に聞こえてくる。日頃から国民の思いとは反対のことばかりしているから、こういう時にも本当だろうかと疑ってしまう。日頃からの信頼度、人柄が無いのが不幸なことだなと思う。

守田敏也さん

僕は宇沢弘文先生の研究室に言っていた時、もっぱら「社会的共通資本としての医療」について研究していました。その関係で知ったことですが、日本の医学界の方たちの中には、凄く志の高い方たちたくさんいて、「日本の医療って凄いなあ」と

思っていて、もともと強いリスペクトがあるのですよ。

イタリアは医療削減でやられてしまいました。今回までに７６０の病院と診療所が統廃合で無くなっていたのが決定的だったのです。日本では保健所の統廃合が相当響いていて、ＰＣＲ検査は保健所を通しているから、人数が足りなくて、電話しても出れる状態ではなくなっている。それがさらにまた、みんなの不安を煽っちゃうわけですよね。「電話をかけろ」と言ってもつながらないじゃないかと言うことで。医療費削減は、元々、小泉総理の時からの流れですけど。

ところがそうは言っても日本の医療界は、病院の統廃合とかにはけっこう抵抗して、また保険診療と自由診療の組み合わせの、混合診療化しようと流れに対しても、徹底して皆保険制度を守ってきました。今現在もそうですが、非常によく日本に住む人々の命を守って来てくれている。人工呼吸器とかＥＣＭＯ（えくも＝人工心肺）とか、達人のような技で扱っているらしいです。機械があれば誰でもできるというものではなくて、そういうたくさんの頑張ってくれてる医療者たちがいて、日々６０人ぐらいから８０人ぐらいの人が集中治療室に入っていながら救命されている。もちろん亡くなってしまう方もおられるわけだけれども。ところが「死者が隠されている」などと平気で言う人たちがいる。「死者数を病院が隠している」というのと同じですから、そんなことを言われると医療者たちはとても傷ついてしまう。

■コロナの危険性冷静に見極めていこう

平　信行さん（南区）

思っていることの一つは、新型コロナウィルスの危険性って言うのはどれほどのものなのかということ。そこはそれこそ冷静に見極めていくことが必要と思う。我々素人にはなかなか分からないことだが毒性の強い化学物質でもないし、赤痢とかそういう伝染病でもないじゃないですか。ワクチンがない、治療薬も開発されていない、容態が一気に急変する症例も報告されているなど、不安を駆り立てる要因はあるけどそれがどれだけ危ないのかっていうのは、なんか今グワーッとなっている雰囲気によって、そこはほとんど語られないまま。自粛とか、休業とか、自宅待機とか、緊急事態宣言とか、そういうことだけに焦点が当たってしまっている。

そこは本当に冷静に極めていく行動スタイルが必要なのではないか。意外と言うほどのことはないのと違うかということもあり得る。過去の感染症の発生の実績などと比較して、今度のコロナは本当に特別の事なのか。それがあまりにもこの危険性については語られていない。毎日々々テレビはコロナ報道ばっかりになっているけど、本当の危険性について関心が向けられないまま人々は思ったり、行動しているような気がして。

学校も私はちゃんと開くべきだと思うけどね。今日も公園で、濃厚接触しまくりながら遊んでいる子どもたちを見たけど、それじゃなんで学校閉めているのかと思ってしまう。子どもたちは関係なく遊んでいる。それが自然なんじゃないかいかと思います。

もう一つは、毎日感染者数が報道されているけどあれは実際は感染者確認数ですよね。あくまで行政が掴んだ数。そもそも何人の人を調べたのか、検査数はどうなのかというのはほとんど出たことがない。そういうデータの報道の仕方はいびつやなと思う。退院数はちょこちょこ報道されているけどそんなに重きを置いて報道されているようには見えない。そういうのは不信感としてつのってくる。

実際に私の知り合いで、体調の悪さを感じて病院に行ったら、帰国者・接触者相談センターに連絡するよう言われた。しかし電話しても電話してもつながらない。とうとうその人は諦めてしまった。その人は症状が軽かったらよかったけど、本当に重症の人が電話してもつながらなかったらどうなるのやということ。今の実態は重大な問題だと感じています。

もう一人、私たちの会員の中で陽性者が発生したけど、その人は発熱したので民間病院に行き、先にＣＴスキャン検査を受け、そこでコロナではないかと診断されて、その後でＰＣＲ検査している。それで陽性であることが分かった。

守田敏也さん

肺には５つの葉があって、コロナの特徴は全部にかかることだそうです。かかり方も一番端っこの方、酸素との交換をするところがかかるので、それでＣＴで診断できることが多いらしい。ただはっきりしない見にくい像が出る場合もあって、ＣＴで確定診断まででできるわけではないそうです。

ただ日本にはＣＴが各国に比べてダントツに多い。ヨーロッパと比較して４対１ぐらい。被ばく問題では決していいことではないのだけれども。レントゲンにいたっては１０対１ぐらいかなあ。ＣＴはＰＣＲより圧倒的にお金がかかるので全員をパシャパシャ撮ることはできないだろうけれども。

平　信行さん

後もう一つは、京都産業大学でクラスターが発生したということで、大学に対して脅迫電話などがいっぱいかかってきていると報道されている。そこには今の社会の異常さのようなものを感じる。産業大学のように、もし私がコロナに感染したら町内で何を言われるのだろうかと恐怖感みたいなものを覚える。

守田敏也さん

みなさんそれで感染するのが怖いというのもありますよね。もっと言うと例えば、病院に勤務している方で、自分がかかったことで病院がシャットダウンする。その周りの人たちが全員濃厚接触者として調べられる。それはムチャクチャ恐怖ですよね。特に閉鎖的な地域社会とかに住んでいるともう住めなくなっちゃう。

平　信行さん

こうした事態は、「なんでもっと早く緊急事態宣言を出さんのや」などという意見とつながっていると思う。

守田敏也さん

僕はＰＣＲ検査あまりやらない方がいいと言ってきたじゃないですか。そのため、「そういう奴らは戦犯だ」と言われはじめた。うわー。戦犯と言われてしまった。「そういう奴らが今の感染の拡大を作ったんだぞ」とか。恐い状況になってますよね。

奥田美智子さん（左京区）

私はマスクはしないんです、絶対に。テレビも仕舞ってしまいました、２月１９日から。だから一切テレビは見ていません。ＮＨＫも民報も。もうしょうもない情報を流し過ぎるなよ、という思いで。

守田敏也さん

やっぱりワイドショーなど、事実を針小棒大に報道するんですよ。例えば「子どもが大人にうつさない」ことが、中国とＷＨＯが共同して書いた論文にも出てきます。僕はそれを読んだのだけれど、だけどひとことしか書いていなかった。「我がチームがやった聞き取りでは子どもから大人にうつった例は一つもみつからなかった」という文章だけなのです。一体聞き取りを何人にやってその内の何人がそう答えたなどのデータがついていない。ところがテレビでは、そこだけ切り取られて、大きなフリップ付きで流されていました。それが安倍政権を批判するためにやられていた。「中国では子どもからうつった例はないのに安倍首相が小学校に休校要請したのはおかしいと。

僕は学童をずーっとやってきても、クラスターが発生しなかったから、このことはもう事実に裏付けられたと思って、その上で「中国とＷＨＯの論文にも書いてありました」と語っています。それが「こういうふうに針小棒大に出すのだな」と思いました。ニュースはセンセーショナルに作られています。たった二行しか書かれていないのに、「ＷＨＯの論文」とか針小棒大にして流している。

日本医師会が最初に緊急事態宣言について触れたときも、ちゃんと会見を見たら、用意された声明では言ってないのですよ。記者に何度も質問された時の答えとして「我々としては出して欲しいと思っています。でも政権を担っている者にとってはそう簡単には決められないのだと思います」と言ったのです。ところがニュースのヘッドラインでは「日本医師会、緊急宣言の要求」と出た。僕はそれを見てから記者会見の録画で確かめてみたのです。それで声明の中では出てこなかっ

た。その後の記者とのやりとりの中で、「緊急事態宣言どうですか」と出たに過ぎない。この話をさせたかった記者がいて、「それは我々は医者としては出して欲しい。だけども社会的事情があるから」と言ったわけだったのです。

■障害のある子どもたちに影響のないよう

矢ヶ崎響さん（北区）**ＺＯＯＭで参加**

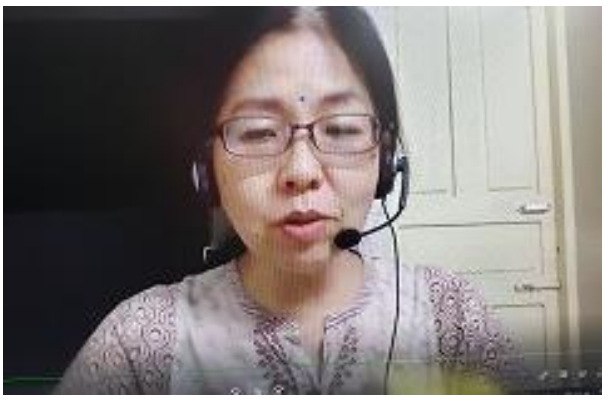
私のところには今、学校が休みになっているので、子どもたちをみて欲しいという要望がたくさん寄せられています。私は感染していないという信頼があって依頼してくれているというのがあります。だから自分はできるだけ人の集まる所にはいかないように努力するとかしています。子どもたちに、特に障害のあるこどもたち、心臓とか肺が弱い子どもたちにはリスクが高いと思うので。今度の総会も出席は遠慮しようと思っていました。

■コロナ禍のインドの市民生活

竹下さとみさん（インド・チェンナイ在住）**ＺＯＯＭで参加**

インドは３月２１日からロックダウン中で４月１４日までの予定ですが多分延長になるでしょう（＊4 月 14 日、モディ首相が 5 月３日まで延長すると発表しました）。感染者数とか死者数はほぼ日本と同じぐらいですが、インドの人口は１３億人なので日本の人口の 10 倍以上です。だから感染者率とか死亡率にすると日本よりもずっと低いことになります。ＰＣＲ検査はやっているとは思いますがあまり情報は入ってきません。

インドではこれまで早々に飛行機の国内便や国際便をストップさせました。日本人が日本に帰りたいという場合は、今までは臨時便がデリーからしか出ていなかったのですが、デリー以外に住んでいる日本人は日本に今までずっと帰れませんでした。今週やっと臨時便がチェンナイからも（私は今チェンナイに住んでいるのですが）３便出ることになりました。ムンバイからも２便か３便出ますが、空港は全部閉鎖されているので、政府の通行証がないと空港にも行けません。



インドでは、ロックダウンになって、都市部で仕事がなくなった人たちは何日も歩いて家に帰ったりしています。ニュースをご覧になった方もあるかもしれませんが、それで、モディ首相が、申し訳ないと言って急遽バスを出したりしましたが、それもギューギュー詰めで危ない。歩いているだけでも警察に「どうして歩いているんだ」という感じでかなり厳しく言われることがあるそうです。

買い物はできますが、時間が決まっています。先週までは朝７時から午後２時３０分までだったのですが、今週からは朝６時から午後１時までに変わりました。食料品店と薬局だけ開いています。買い物もソーシャルディスタンスを守らなければいけないということで、店の外に○とか△が１メートル間隔で書いてあって、そこで待っていないと警察が来たら怒られます。お店もすべて対面式で、店内に入らなくてもいいお店ばかりです。スーパーマーケットもあって先週まで開いていたのですけど今週からもうクローズしました。

人がたくさん集まると危ないということもあって、自宅近くの野菜や果物の実店舗は全部閉めて、少し離れた広いグラウンドに集まって営業を続けています。開いているお店は限られているので、人がたくさん並んでいてなかなか買うことができません。でも欲しいものはだいたい買えます。

今のインドの状況も長引いたらどうなるのか分からないので不安です。日本に帰りたい人は今

度の臨時便が最後なのでこれを逃したら６月までは日本に帰れなくなります。

私は帰りません。帰っても日本に家がないので。飛行機は成田着しかありません。帰国したら２週間はホテルか自宅で自主隔離しなければならないのですが、ホテルもなかなか見つからないと聞いています。公共交通機関も使えません。ホテルをやっと見つけた人から聞いた話なのですけど、ホテルの部屋の掃除もしたくないと断られたり、タオルも交換したくないから買い取って下さいと言われたそうです。せっかく自分の国に帰ったのに、すごく傷ついて、なんで帰ってきたのだろうと言っておられる方もいます。帰国するとなると飛行機代がかなり高いこともあるし、住む所も見つけられないし、今度いつインドに帰って来れるか分かりません。これから治安が悪くなると言われていて、それが一番不安なんですが、うちにいる限りは感染する確率は非常に低いです。いろいろ考えたらインドにいる方が安全だと思って、帰らないということを選択しました。

こういう状態ですから、日本の様子をニュースで見ていると大丈夫なのかなとすごく心配になります。

（竹下さんの発言はすべて４月９日時点での内容です。以下４月２４日での追記です）

先週、スーパーが開いていたので行ってみました。まず番号札をもらい、店の前に１メートル間隔で描かれた丸い円の中で順番を待ちます。家族数人で来ても１人しか店内に入ることができません。スーパーにはお客さんは３人まで入れます。１人出たら、１人入れます。入るときは係の人に番号札を渡して手を消毒します。店に入ったら、左回りで欲しいものをカゴに入れていき、後戻りはできません。店内のところどころにお店の人が立っているので、聞きたいことがあれば聞くことができます。品薄感はなくいつもと変わらない店内でしたが、スーパーで買い物するのにあんなに緊張したのは初めてででした。しかし、このようなルールがあると 100%じゃありませんが安心感があります。先週、私が住んでいるところから 800 メートルくらい離れたところで 20 人の集団感染が発生したので、買い物したものは、うちに帰って洗ったり拭いたりし、そちらの方向へはもちろん行きません。

また、４月２日にインド政府は Aarogya Setu というＡＰＰの無償配布を始めました。これはＧＰＳと Bluethooth を使用して新型コロナウイルス感染者との接触履歴から自分の感染リスクを調べたりすることができるアプリで、英語を含むインドの１１の公用語に対応しています。ロックダウン決定の時期にしてもアプリにしても、インド政府のスピート感を体験すると、日本は一体どうなるんだろうと不安でしかたありません。国によって事情が違い、政府のやり方などには違いがありますが、なんにせよ早く終息して、世界中のみんなが安心して暮らせるようになってほしいです。

■学生の希望の芽を摘むコロナ対策

有地淑羽さん（京田辺市）**ＺＯＯＭで参加**

今日、学生と内緒のミーティングをしたのですけど。もちろん距離を置いて換気をしてですが。３人ほどのミーティングだったのですが、やっぱし京都産大のことがあって。〇〇大学の学生ですが８月まではクラブ活動も全部休止ということらしいです。就活の３年生とかは本当に大変らしくて、街作りとか社会貢献で就職を考えていた人たちはもうそのチャンスがなくなってしまいます。

産大の学生が避難されていますけど、私たち街づくりしている人間からみると、あれだけのネットワークをよく作ったなと思います。同好会から院生まで幅広く、地元に愛されながらネットワークをよく作っていたなと。こういうチャンスがコロナのことでなくなってしまうのは本当に残念です。学生＝バイキンみたいに社会から受け止められてしまって。学生の人たちが拠点にしていた

○○館という所も近所の人から前は暖かく見守られていたのが、今は冷たい目線を感じるような。のどかな所で換気はとってもいい所なのですけど。学生も全然歩いていなくて、本当に静かな駅になっています。

それから私がちょっと気になっているのは、改憲に進みたいというような、何とはなしに動いていくムードが作られていくのが嫌だなと感じているところです。自民党の改憲草案に入っているのを無理矢理一生懸命押している、嫌な空気です。

■無意識のうちの自己統制の恐さ

小林孝企さん（宇治市）ＺＯＯＭで参加

さきほどの守田さんの考え方、私も非常に同感しています。

最近、みなさんお読みになったかなと思うのですけど、４月２日の朝日新聞９ページのオピニオンで、インタビュー記事なのですけど、そこで金沢大学法学類教授の仲正昌樹さんが答えていらっしゃいます。最近の自粛とか休校の要請ですね、これについて無意識に自己統制になっているのが一番怖い。それからその中で言われているのは、誰しも極端な意見に対しては普通がいいのだという感じで、みんなと意見を闘わすというのが消極的になっていく。それが怖いということをおっしゃっています。

そういう意味では憲法の話ももちろんあるのでしょうけど、普通に話すこと自体が規制されていくっていうのが、規制されていくのではなくて、自己規制していく。それは政府にとって一番安上がりな国民統制につながるのだろう思います。そこのところをしっかり見ていかないといけないかなあ、と。

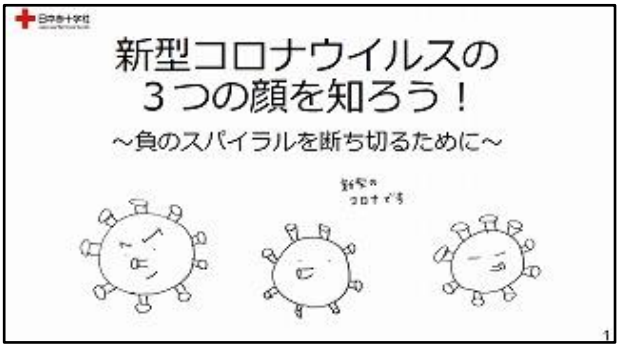
もう一つは、コロナの関係では、テレビの問題がかなりあると思うのですね。ある程度は、コメンテーターとしてそれなりに知識を持った人が出ていらっしゃると思うのですが、時々どうかなと思う人が出ていらっしゃいますし、バラエティ番組とは違うよと言いたくなることも。コロナの問題を正確に伝えていくことを自己規制して欲しいなという気がします。

■医療者への差別・偏見を許さない

倉本史陽さん（右京区）ＺＯＯＭで参加

医療者に対する差別、医療者の家族も含めてですが、起こっていることが、やはり医療関係に携わっている者からすると非常に危惧しているというか、実際に起こっているのでそこが一番心配なところです。正しい情報が伝わっていないこと、そういうことがなかなか解消されていないからですから。

日本赤十字社の出された「新型コロナウィルスの３つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」というガイドラインで、感染の恐さは不安と差別が問題だと。日赤のガイドラインは出典を明らかにして広げて下さいとされているので、みなさんからも広めていただきたいと思います。



ネットで見る医療者への差別の事例ではこんなことが起こっています。

病院の職員や家族がタクシーの乗車を拒否された。

訪問看護師が地域訪問している際、訪問看護ステーション○○と書かれた車を見て近所の人が「お前らがそうやって地域を回っているから感染が広がるんだ」と言われた。

これは実際にあったことを体験した看護師さんがツイッターで報告したものが、Ｊ-ＣＡＳのサイトに記事が掲載されていました。Ｔ全国ではこういうことが起こり出しています。

訪問看護でも訪問介護でも、感染を恐れてのキャンセルも少しですが出ています。これからさらに増える可能性があります。また、院内でクラスターが発生した病院では、職員間での差別的言動も発生しているとのことです。更には、病院で働くことへの家族の理解が得られず差別的発言を受けた人や退職した人も出始めています。

現場の職員は、日々自分が感染する恐怖とたた

かいながら働いています。ただ自分が病気になること自体を恐れるのではなく、医療・介護が提供できなくなることを、患者さんや利用者さん、家族に感染させることを恐れています。

■一番弱い人たちに向けられている今の状況

吉田妙子さん（北区）

平さんから紹介された京大の藤原辰史先生の論文「パンデミックを生きる指針」、あれ読んで本当に心が洗われるような気がしました。詩のような文章を書かれる方ですので、すっかりそうだなという気持になりました。スペイン風邪の時も戦争の中で兵士たちがどういう状態だったのか、そういうこともとてもよく分かりましたし、いい論文を紹介いただいたので、いろんな人に拡散しています。

私は長いこと公務員やってきたので、いろんなことを経験していて。いざという時の公務労働といいますか、災害とか感染症とか安全行政もそうですけど、普段は「いらんのじゃないか」とか、「あいつら遊んでいるんじゃないか」とか言われ、組織や人員の削減がすすめられて・・・土木事務所もそうでしたけど、保健所もそうでした。緊急の事態になってきた時に、「役場は何してんのや」と住民の人たちはすぐに言われますが、人員や体制を減らしてＯＫしてたのは誰やと。こんな時に言いたくはないですけど、やっぱり今までのいろんな問題が、学童保育もそうですし、保健所もそうですけど、ひずみ、ゆがみがいま、全部あぶり出されている。それを全部やってきたじゃないですか、政治も。いざという時のためにちゃんと危機管理をやっていなかったら、社会と言うのは駄目だなとつくづく思います。

私はコロナで困っていることを行政に、と新婦人でも交渉とか申し入れとかしていますが、それだけじゃアカンなと。今日も公園で小学生、中学生がやっちゃいけないボール遊びをしていてちっちゃな子どもたちが公園の端の方に追いやられているという話がでて。そんなのは地域で、町内会やいろんな人らと一緒に解決して行くべきこと。コロナで細かい問題がいろいろと出てきていますが、気づいた自分たちで具体的に解決していかなくてはと思います。

私の９６歳の義母は介護施設でお世話になっていますが、この５０日ほど会えていません。毎日コーヒーを届けに行っていましたが、今は施設の受付で洗濯物の受け渡しをするだけです。老人性うつ症になったみたいで、食事もしなくなった、点滴もいらないと言っているそうで。もう世の中から見て捨てられたような気分になっているのでしょうね。目が悪いので太いマジックで「お母さん元気出して」とスタッフに手紙を預けたりしていますが、直接面会できないというのが本当に辛いです。

海外でも認知症の方が家族のことをわからなくなっているというニュースが報じられていましたが、親戚で知的障害施設でお世話になっている子がいますが、その子も、土日になっても誰も迎えに来てくれない、今の状態の意味がわからず、ストレスフルになっているみたいです。高齢者アパートに住んでいる知人も「外に出るな」と言われて、お誘いしても「もう出られへんのや」と。

コロナは、そういう高齢者や一番弱い人たちに向けられていて、すでに様々な人の人生に影響を及ぼしていると、義母をみていて、つくづくそう思うのです。可哀そうです。

平　信行さん

藤原先生の論文の中で印象に残っていることの一つは今の子どもたちの７人に１人は貧困家庭の子ども。その子たちにとって栄養補給する唯一の機会が学校給食だと。それが奪われている。そのことにちゃんと目が向けられているかと。そういうことを視野の外に置いて学校休校を求める署名運動まで行われて、それはそれで思いはあると思うけど、そういうことまで含めて考えられたのかという疑問を持ちました。

■私たちの社会を壊してはならない

石角敏明さん（長岡京市）

僕らが作り上げてきたいいシステム、社会というものが全部破壊されていっている、壊されているんじゃないか。ちょっと感染者が発生したらすぐに犯人探しに行って、すぐに非難する。その非難も無茶苦茶する。産大の件で一番最初に思ったのは、こりゃ産大の職員さん大変やな、産大の受験生も減るんじゃないかなと思ったり。あそこの家で感染者出たらしいとなったら、その家族全員が犯人扱いでしょ。何か悪いことしたみたいになってるでしょう。

「大変やねえ、あんたとこ」と言って昔はお互いフォローし合ったものだけど、今は地域から出ていけ、そういう感じになっていて。さっきの看護師さんの話じゃないけど、一番頑張っている人が非難される。考えられなかったことが今起こっている。それに対して誰も非難しない、怒りもしない。こういう社会は怖いなあと思っています。

平　信行さん

倉本さんが紹介された日赤のガイドライン、今手元にあるのですが、新型コロナの持つ３つの感染症と言っています。第一の感染症は病気そのもの、第２の感染症は不安と恐れ、そして第３の感染症は嫌悪・偏見・差別、です。とても説得力があり分かり易いガイドラインです。有効に活用し拡散していきたいと思います。

■みんなもっと寛容さ、優しさを持って

守田敏也さん

不安とか恐怖が一番伝搬する、一番感染力が強いのです。人の感情の中で一番伝わりやすいのは恐怖ですからね。日赤のガイドラインと抱き合わせて一つの記事を作ろうと思っています。ジョンズ・ホプキンス大学というアメリカの感染症研究についての権威あるところが、２０１８年５月に「パンデミック病原体の特徴」という論文を出していて、なんと、新型コロナウィルスをほとんど言い当てているんです。一番怖いのはいまの新型コロナのようなものだという感じで。

致死率はそんなに高くない。実は致死率が高いウィルスは、宿主をどんどん殺して、感染が終わってしまうのですからですが、さらに発症前からうつすものが一番恐いと言われています。恐いというのは病気として毒素が強いかどうかじゃなくて、社会にとって恐いのです。「まさにこれは当たっているなあ」と思いました。

今回のウイルスは致死率が高くないことに対して、ＳＡＲＳ（重症急性呼吸器症候群）だと 10 人に１人は死ぬんです。そして、そういう怖いものを感染させないためには高いガードが必要なのですが、それが今回も適用されてしまっている。だからお母さんに５０日以上も会えなくなる。コロナウィルスの致死率はＳＡＲＳよりもずっと低いのだから、もう少しガードを下げた方が妥当だと思うのです。しかしそういう準備はできていなかった。全世界的に準備できていなかったのではないかと思います。

でもいまは少しずつ変化してきている。例えば感染者の隔離や療養に、ホテルを使うことになった。これはいいことだと思う。ほとんど症状のない元気な人たちもいるわけだから、従来の病棟を使う必要はないわけです。重症者だけに使いたい。もちろんホテルを感染症対策に使うのは、それはそれで大きな難題だろうけど。もっと柔軟に変えていけないだろうかと思います。

これは京大の山中先生がＮＨＫに出演して言ったことなのだけれど、例えばイタリアでは１２万人の感染者の内、医療者が９７，０００人も感染したのだそうです。だから医療崩壊してしまったわけですよ。でもその９，７００人の内８割から９割は感染していても元気なのです。なのに病院で働けないのですよ。だったら例えば感染している医師とかナースが、コロナの感染症病棟作ってそこで働けるようにするとか考えられるのではないかとね。これは山中先生が一つの例として言ったことだけれども、そうやって対応を柔軟に変えて、吉田さんの場合でも、なんらかの形でお母さんに会いに行けるシステムを作るとか。新型コロナに即して。そうしないと失われるものがあまりに大きい。ＳＡＲＳだったら仕方ないかもしれないけれど、そうではないのに５０日間経ってもコーヒーも届けられないことの方が、お母さんにとって間違いなくダメージになっているでしょう。だから、その辺りを変えることが、今回、凄く大きな課題として人類に突き付けられているのだと思います。今のシステムは、コロナウィ

ルスにとって非常に都合が良いわけです。ウイルスを倒さなくても、人間の側が勝手に、医療者だとか、いろいろなシステムを担う人々をリタイアさせちゃうわけです。そんな矛盾を感じますね。

まあそんな中で、ともあれ、「みんな、もっと寛容さを、優しさを持とう」みたいなメッセージを出す必要があると思います。思いやりとか、そういう温かいものを大事にしようと言っていく必要があると思う。左京区の府会議員の光永さんと、医療者を応援するキャンペーンをやろうかと相談しているのですが、みんながスマホで一分メッセージを出して、病院などのみなさんに感謝するメッセージでとか次々流れるようなものを作って、見てもらって、多分心が折れそうな状況にある医療者を励まそうと。

倉本史陽さん

イギリスでそういうのありましたね。

竹下さとみさん

イギリスよりインドの方が先にやりました。２度やりました。

守田敏也さん

インドに学ぼう、でやりましょう。

倉本史陽さん

それやっていただけると非常に心強いです。正直言うと、物資が足りないという不安とか、実際に支障を来しているので、そのことをどうするかと言う問題もあるのですけど、一方でやっぱり気持ちのところで応援していただける人が一人でもたくさんいて、アクションがあって、それが現場に伝わっていけばみんな力になると思います。

■みんながそれぞれの場で発信を

平　信行さん

今日、特に具体的な結論を出すわけじゃないですけど、守田さんの言われたお互いの優しさを大切にしていこうとか、私はもっと冷静に見極めていこうというか、本当のところを突き詰めていく努力を一般市民であっても必要なのではないか、コロナがどこまで本当に危ないのかということを言いました。その中で今のように一律に学校を全部休校にしちゃうとか、自主要請にどんどん応えていくとか、介護施設は一切面会禁止とか、そういうやり方が本当にいいのか、ともっと柔軟に我々は対応していくことが必要で、そういう能力はやっていけばあるのではないかと思ってきました。

４月１８日に予定していた総会開催も基本的にはそういうことでした。ちゃんと求められることをきちんとやれば開催してもいいのではないかと思ってきたのです。それはもう拘っているわけではありませんけど。

今後いろんな活動をしていく上で、石角さんが言われたように本当に社会が壊れていくというか、飯も食えない人がいっぱい出てきているわけだし、そうはさせないとりくみがお互いこれから必要なのではないかと思います。そういうことを京都「被爆２世・３世の会」会員がそれぞれの場でも発信していきましょう。

ということで今日のまとめにしたいと思います。（了）

▼会議後の感想

米重節男さん

今回の意見交換の中であった発言に関して、感じたことがあります。

① 石角さんの「作り上げてきたいいシステム、社会というものが全部壊されていっている」ということに関連して、一大事となっても人はそんなに変われないものだ、普段の生活が大切なのだと思った体験です。

東日本大震災が起こってから、２０１１年１１月に福島県南相馬市に開設されていた共産党のボランティアセンターに駐在して、さまざまな取り組みをした経験があります。その時に、仮設住宅に避難している人たちに支援物資を配るに当たって、各住宅で大きな差がありました。避難する前の地域単位で仮設住宅に入居しているのですが、地震・津波にあう前の地域社会の在り方が、そのまま避難先でも展開されていました。

冬に向けて、京都や四国から毛布を集めて、仮設の人に配る取り組みをした時の体験です。仮設住宅の区域で、受取りの対応が全然違っていました。仮設住宅内での自治会や町内会のような体制ができている所では、代表者が「〇〇枚ください。あとは自分たちで各

家に配ります。」という対応です。一方で仮設住宅の代表もいない所もあり、そのような所では、一軒一軒尋ねて配ってまわる必要がありました。またボランティア活動での配布物を、市役所からの物と思う人もあり、随分と差があることを感じました。

あとで聞けば、仮設に入る前に住んでいた地域社会が、そのまま仮設でも出ていると話でした。自治会や町内会がしっかりと機能していた地域の人では、仮設でもそのスタイルが生きていたのに対して、町内会などが機能していないような地域の人たちでは、仮設に入っても、すぐには自治会も組織できにくく、代表者も決まらないという傾向があったとのことでした。考えてみれば当たり前のことですが、なるほどと気づかされたことでした。

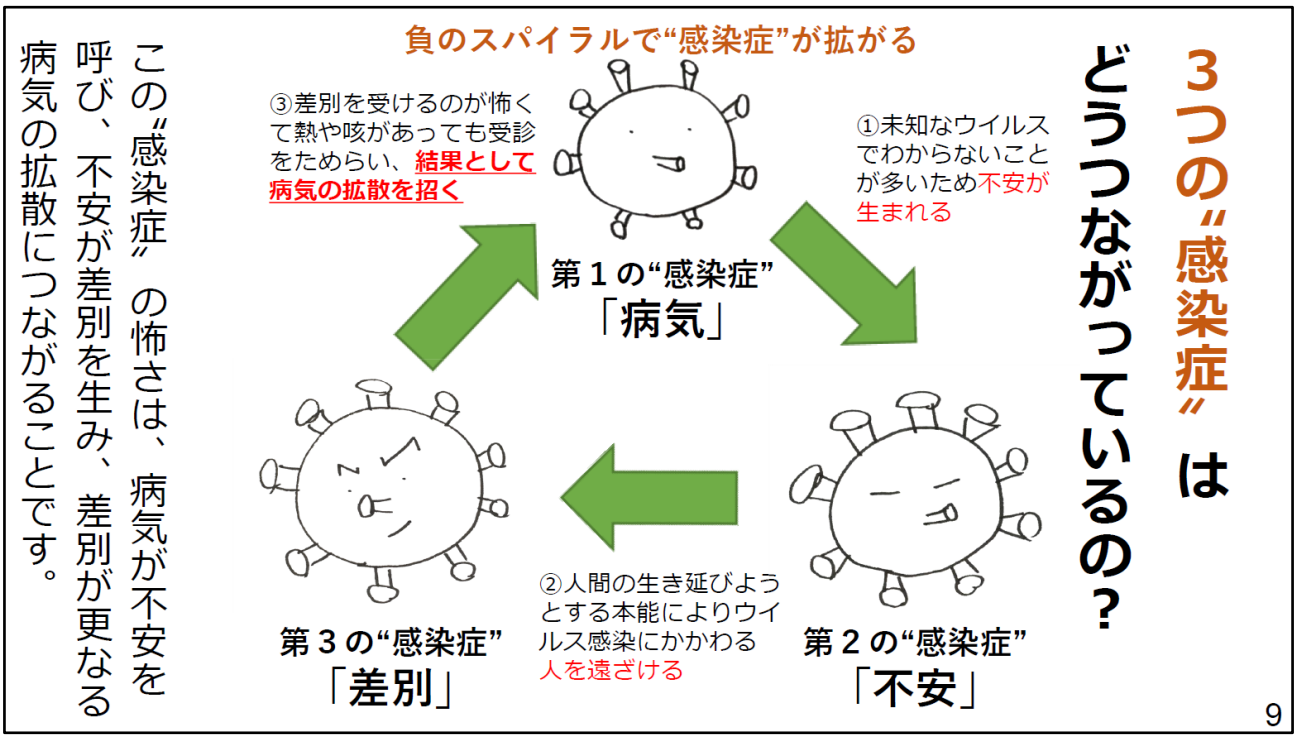
今回の新型コロナウイルス感染の問題は、事象は違うがいざという時にも普段の生活のあり方が生きてくると言う点では共通していると思います。先は長そうですから改めて生活のあり方を問う機会かと思います。

② 吉田妙子さんが、９６歳の姑さんに５０数日間も面会できずにいると話されたことで、涙の出るような心に突き刺さるものがありました。このような人の状況を直接きくことが無かったので、置かれている状況が良くわかりました。元気な人の話が前に出ることが中心になりがちな中で、親４人を見送った経験からも本当に弱い立場、不利な状況の人たちのことに耳目を向けることの大切さを改めて思います。

③ 藤原先生の論文で、今回の新型コロナウィルスは１００年前のスペイン風邪とよく似ているとの指摘は、今の状況に照らしてなるほどと思いながら、吸い込まれるように読みました。また、そこから学ぶべき教訓は今に生きることです。早速、この論文を紹介しています。

スペイン風邪というのがはやったと聞いたことはありましたが、実態は忘れられているとのことで、改めて関心を持ちました。このスペイン風邪では、わが家では私の父が生まれた当時のことで、父のすぐ上の姉が亡くなっていると、従兄が言っていたことを思い出しました。また、妻の方でも亡くなった人があるとのことで、身近で多くの人が亡くなった病気だったのだと実感しています。

日本赤十字社　新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう！　～負のスパイラルを断ち切るために～　より



核兵器禁止条約発効めざして

ナミビアが核兵器禁止条約批准　３６ヵ国へ

南アフリカの国ナミビア共和国が２０２０年３月２０日に批准書を国連事務総長に寄託。これで批准国は３６ヵ国になり、発効まで残り１４ヵ国となりました。

核兵器に使われるお金 vs 医療のためのお金

新型コロナウイルス(COVID-19)の大流行から市民を守るために、世界中の政府はより多くの資金を必要としています。公的資金を医療ではなく大量破壊兵器に費やすという核兵器国の方針は、この状況から見ても到底受け入れられるものではありません。そこで、核兵器の維持、改良、開発のために、米英仏の 3 カ国が毎年どれだけの資金を投じているのかを分析しました。

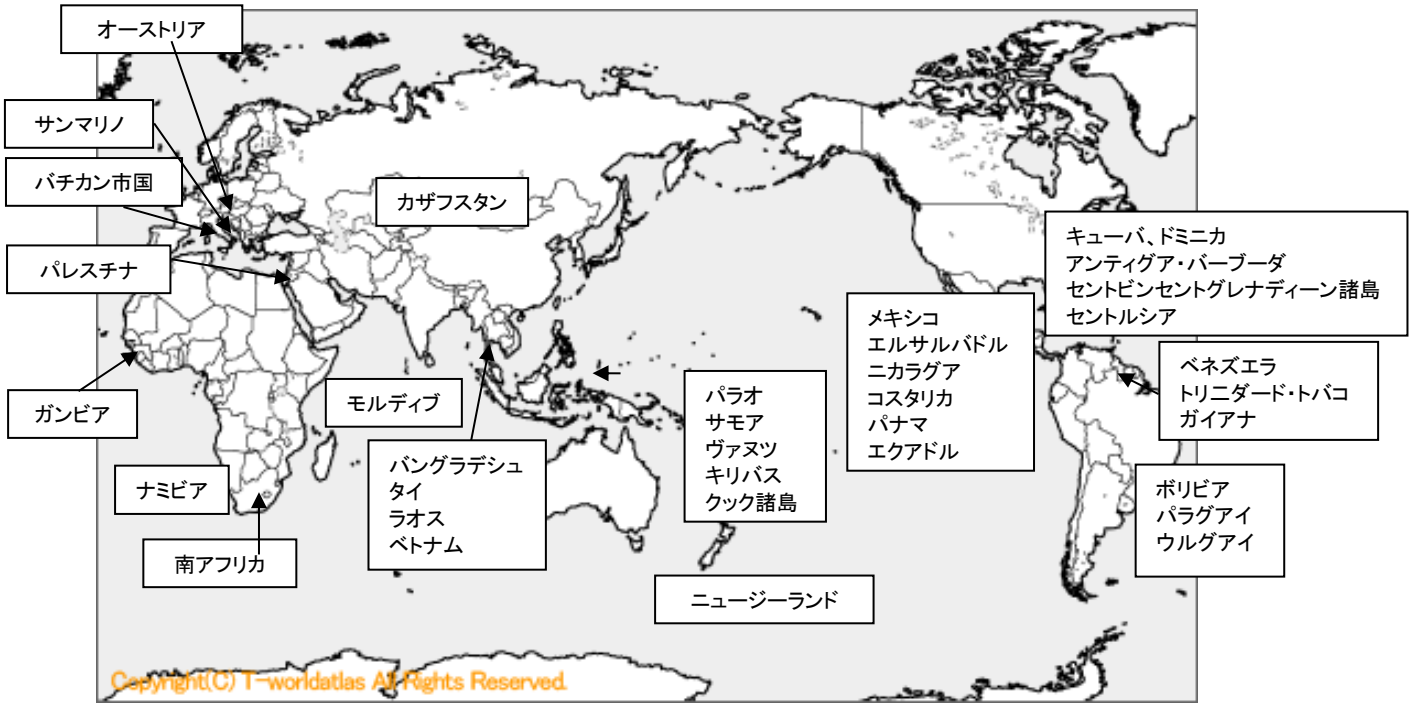
＜フランス＞

フランスのエマニュエル・マクロン大統領は、2019 年から 2025 年にかけてフランスの核軍備に 370 億ユーロ（約 4 兆 4,400 億円）の予算を充てました。これが 7 年分の会計年度予算であり、毎年補正予算で追加されることを考えると、2019 年分は約 45 億ユーロ（約 5,400 億円）だったと推定できます。これだけの資金があれば、10 万人分の集中治療室のベッド、1 万人分の人工呼吸器、および看護師 2 万人と医師 1 万人分の給与を補うことができます（費用は公表されている額の平均に基づいています)。

＜英国＞

英国が核戦力を運用し、新しい原子力潜水艦システムを構築するために費やした費用は、2019 年約 72 億ポンド（約 9,600 億円）に達しました。一方、英国は現時点で 4 万 3 千人の看護師と 1 万人の医師不足に直面しています。1 年分の核兵器への支出を使えば、この人手不足を簡単に解消することができます。72 億ポンドは、集中治療室のベッド 10 万台、人工呼吸器 3 万台、看護師 5 万人と医師 4 万人分の

２０２０年３月２０現在　核兵器禁止条約批准国３６ヶ国



給与に相当します。
＜米国＞
米国は 2019 年、核兵器に 351 億ドル（約 3 兆 8,600 億円）もの費用を投入しました。これはフランスと英国の合計の約 2 倍です。専門家は、米国の病院では集中治療室に約 30 万台のベッドと数万台の人工呼吸器がさらに必要になると警告しています。351 億ドルあれば、患者やその他緊急のニーズを満たすことができます。1 年間の米国の核兵器支出は、集中治療室のベッド 30 万台、人工呼吸器 3 万 5 千台、および看護師 15 万人と医師 7 万 5 千人分の給与に相当します。
※これらの費用は報道されている平均値を用いています。原文リンクから、本文で引用されているデータの出典元リンクに飛ぶことができます。

出典：ＩＣＡＮウェブサイト　まとめ訳：田中美穂　３月２２日

会員から会員へ　✿　みなさんからのお便り紹介

４月９日の例会で出された近況報告なども含めて紹介。
他地域の２世・３世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■春からの学期がすべてオンラインに

宮本ゆきさん（アメリカ・シカゴ在住）

あれから、状況がすっかり変わってしまい、今は春休みですが、春からの学期がすべてオンラインに移行したため、我々は必死で、やり方を学んでいます。また、レストランやバーでの飲食も禁止となり（テイクアウトとデリバリーのみ）、必要最低限のビジネス以外は機能していません。（食料品店と薬屋と病院）。そんな中、なんとかイリノイ州の選挙には行ってきましたが、残念ながらイリノイもバイデンに票が行ってしまいました。

というわけで、今はあまり大きな動きがないかと思いますが、自分の勉強にもなりますので、また何かありましたら、是非声をかけてください。

こういう時こそ、心身ともに健康でなければ！と思う毎日です。みなさんも健康にご留意なさって、いつまでも大事なお仕事続けてくださいませ。

■立命館大学国際平和ミュージアムの紀要「立命館平和研究２１号」が出版

山根和代さん（右京区）

立命館大学国際平和ミュージアムの紀要である「立命館平和研究 21 号」が出版されました。アメリカのヒバクシャについて特集があります。イタリア人のグロリア・セーラー氏の「日本人被爆者と日系アメリカ人被爆者の活動から平和運動を考える」は、講演の報告です。また守田敏也氏の「核の終わりを探る旅―アメリカニューメキシコ州・環審と集などを訪ねて―」が掲載されています。

国際平和ミュージアムは４月１日から開館の予定でしたが、コロナウィルスのため引き続き閉館します。いつ再開するかまだわからないようです。

紀要を入手したい方は、開館後 1 階の受付で聞いてみて下さい。ただ国際平和ミュージアムは閉館中ですので、もし行く場合は、先に電話をして訪問するようにして下さい。

■同志社の学生たちがインドの日本語学校を訪問

竹下さとみさん（インド・チェンナン在住）

２月の中頃に同志社大学の学生たちが私の働

いている日本語学校に来て交流会を行いました。その同志社の学生たちによる日本の文化を紹介の中で、一人の学生が、日本の教育について発表しました。そこで、日本の学校での平和教育や、広島・長崎に落とされた原爆のこと、そして非核三原則について説明すると、それを聞いていた私の学生たちから拍手がおこりました。

交流会終了後、発表をしてくれた同志社の学生と先生方に、お礼を言いました。短い時間であっても日本の若い人が同じ年代の外国の人に原爆の話をしてくれたことは、被曝二世として本当に嬉しかったです。カリキュラムの関係で、なかなかゆっくり学生に話をする時間がとれませんが、チャンスがあれば私もインドの学生に広島・長崎のことを伝えたいと思っています。

■現代版コロナ「受忍論」

平　信行さん（南区）

新型コロナウィルス感染拡大に対して安倍政権は「補償なき自粛要請」「補償なき休業要請」の態度をかたくなに守ろうとしています。政権のこの姿勢を見ていて、１９８０年に答申されたアジア太平洋戦争に関わる戦争被害の「国民受忍論」を思い起こします。

アジア太平洋戦争で被害を受けた軍人・軍属には累計５０兆円もの補償が行われてきましたが、民間人被害者には何の補償もないまま打ち捨てられてきました。東京、大阪などの都市空襲被害者、シベリア抑留者、旧植民地出身者など民間の戦争被害者の数は膨大になります。その多くは、命を奪われ、家を焼かれ、家族を失い、健康を損ない、暮らしを破壊されながら塗炭の苦しみの中で戦後を生きてきた人々です。国家の命によって始められた戦争、その結果被った被害。被害者は国家によって救われなければならない、と多くの被害者が国家補償を求めてきました。

これに対抗するため政府は、１９７９年、原爆被爆者の国家補償について検討する際、「原爆被爆者対策の基本的在り方を検討する会」という有識者の審議会を構成し、審議会は翌１９８０年に「原爆被爆者対策の基本理念及び基本的在り方について」（基本懇意見）と題した意見を報告しました。

この報告で示されたことの基本は、「戦争という非常事態においては、生命・身体・財産の犠牲を余儀なくされたとしても、国民は等しく受忍しなければならない」というものでした。要するに、「国民みんなでやった戦争なんだから、その被害も国民みんなが等しく耐え忍ぶべき、やむを得ない犠牲だ」と言うものでした。これが「国民受忍論」と言われるものです。

この答申を盾にして、被爆者の基本的要求が退けられるだけでなく、都市空襲被害者など戦争被害者の補償要求もことごとく切り捨てられてきました。棄民政策そのものです。

今、安倍政権は新型コロナウィルス感染対策への補償はしないまま、“国民が一丸となって”の言葉を繰り返し強調しながら、自粛・休業・７０％もの出勤減少などを求め続けています。“国民が一丸となって”の言葉の裏側には、国民全体が被る被害なのだから国民みんなが我慢して耐え忍ぶべきだ、国家の財政（私たちの税金のはずですが）など求めてはならない、といった思考が隠されているように思えてなりません。現代版の受忍論です。

このようなことを許していたら、コロナ感染よりも、自粛・休業で生じる生活破壊で多くの犠牲者を生み出し兼ねません。「自粛・休業と補償はセットで」の声をさらに大きくしていきたいと思います。

■今戦時中という感じで心配

マシオン恵美香さん

（北海道釧路市／北海道・被爆二世プラスの会）

いつも有用な情報をいただき、ありがとうございます。

私も今回の騒ぎでご依頼いただいていた講演が２つキャンセルになりました。夏に札幌で開催される北海道の平和美術展に於いて、すでに講演が決まっていますが、そこまでこの騒ぎが続かないことを願っています。

印象としては戦時中という感じですね。行動規制もありますし、政府や自治体の議会で決めったことを追及することも難しい感じです。むしろ、これに乗じてなんでもスルーされていくことが心配です。

■延期になったＮＰＴ再検討会議、その分もっと署名が集められる！

門川恵美子さん

（横浜市／神奈川県原爆被災者の会２世支部）

新型ウィルスの猛威のなか　様々な行事が取りやめになりがっかりの毎日ですが、うちの二世で原水禁世界大会ニューヨークへ行くつもりだった女性が、「行くまでに１００人の署名を集めてそれから行こうと思っていたけど延期になったのでもっと集められるね」と言ってくれました。なんてすてきな人が会員になってくれたんでしょう。その分だけ時間が出来たから、勉強と署名活動がんばろうねと励ましあいました。京都の会報はよいテキストになります。ありがとうございました。

被爆者の会は神奈川も京都も同じころできたのですね。ビキニ事件を契機に原水禁大会が開かれ、参加した被爆者のみなさんが地元であつまり、会を創っていったのです。一軒一軒訪ねてよびかけ、時には「帰れ！」と罵声をあびせられたり、「よく来てくれた」と喜ばれたり・・・の話を聞いて感動しました。二世のみなさんに知ってほしい話です。

定例会の話はいつも決まったメンバーばかりなので皆さんの話をニュースに載せてほかの会員さんに知らせ、そういうところなのかと親しみをもって欲しいと思いました。

平和行進中止は今のところ神奈川だけのことだと思います。東京から受け継ぎ、静岡へとつなげていくはずなのですが、どちらも中止とは聞いていません。私たちも４月の定例会、５月の総会どうする・・・と気が気ではありません。コロナの収束を祈るばかりです。

■宮本さんのレポートに引き込まれ、石角さんの書評に笑いを誘われ

加百智津子さん

（岡山県総社市／岡山「被爆２世・３世の会」）

京都の会報そして総会延期のお知らせも拝見しました。それにしても、コロナ禍は大変なことになりました。日本の政権の本性が改めて見えた思いです。「あんたらのお金でもないのになんでそんなに出し惜しみする？！」「ドイツでできる温かみのある、素早い補償がなぜできない？！」･･･私は怒り心頭、怒髪衝天！そして日本人はなぜ怒らない？！と心がざわつく日々です。メルケル首相が２週間の自宅待機を終えて国民への演説には心から感動しました。この言葉に（下記）すべて言い表されています。

・私がみなさんにお約束できるのは、連邦政府を頼ってくださいということです。

・親愛なる国民のみなさん、連邦政府と私個人がこの仕事を担うことに期待していてください。

・確かにソーシャルディスタンスは守らなければなりません。ですが、**それが親しみや愛情、連帯感を示すのに妨げになることはありません**。手紙を書き、電話をかけ、スカイプで話し、ほかの人の買い物を手伝い、自宅でのコンサートをネット配信することもできます。これらのすべてが、いまの時期を一緒に乗り越えていく力になります。

“その後”は必ず訪れます。心から祝うことのできるイースター休暇はまたやってきます。「結果論」としての素晴らしい生活がいつ戻るかは、いまの私たちの手にかかっているのです。共に力を合わせて、この危機を乗り越えましょう。それが、私たちにいまできることなのです。

また、国連のグテーレス事務総長は、「世界中に即時の停戦を求める」と呼びかけました。４月３日にはビデオ回線を通じた記者会見で「世界は今、新型コロナウイルスとの戦いに専念すべきだ」と述べ、世界各地で続く紛争の即時停戦に向けて働きかけを強める考えを示しています。

私自身もコロナ禍を憂いつつも、核兵器にかける莫大な軍事費を人びとの命に！戦争や紛争にＳＴＯＰを！という流れに世界が変容していくきっかけになることを願います。そして、自分自身の暮らし方を見直す機会にもしたいと思います。

会報で、宮本ゆきさんの「アメリカ大統領選挙と核兵器政策」に引き込まれました。日頃日本のわたしたちにはなかなか知ることができないことです。テレビニュースでみる大統領選挙の様相は“単なるニュース”でしかありませ

んが、宮本さんのそれを通してみると、また違った見方ができます。アメリカの核兵器政策の転換が一筋縄ではいかないことも教えられます。サンダース氏が撤退を表明したのは残念ですが、であればこそ、世界終末時計の“１００秒前”が現実にならないためにも、トランプだけは選んでほしくないので、バイデン氏の勝利に賭けたいと思います。

石角さんの、「桃太郎は盗人なのか？」のご紹介文中に“岡山県人のみなさんごめんなさい」とあり、笑ってしまいました。実は私の住む岡山県総社市には「鬼ノ城（きのじょう）」という鬼が棲んでいたと言われるお城跡があります。この一帯は古代に“吉備の国”と呼ばれており、「温羅（うら）伝説」という言い伝えがあります。それは、悪行三昧極悪非道の温羅（鬼）と、温羅から吉備津の国を守ったといわれる吉備津彦の命（きびつひこのみこと）が正義の味方桃太郎であるというものです。（超ざっくりした説明ですが）

一方、鬼は実は慈悲深く人間と仲良く暮らしたいとの願いが叶えられず、人間から迫害されたことでやむなく矢を放ち人びとを傷つけたことから鬼退治という名目で成敗されたという異論もあります。その鬼退治にやってきたのが桃太郎ではなかったのかとそんな話もありますがそれは「？」です。息子が小学６年生だった３０数年前にその異論を元に「もうひとつの温羅伝説」というタイトルの演劇をしました。当時の担任がすでに鬼は決して悪者ではなく、むしろ人間が鬼たちの平和を壊したのだというシナリオを書いて演じさせたのです。保護者にとっては思いがけない展開でしたが、担任は、生徒と保護者を前にして、「ときの為政者は誰かを悪者に仕立てて戦争を始め、民を戦さに駆り立てるものだと教えたかった」と言っていました。ですから、倉持よつばさんのこの本が出たとき、あの演劇を思い出して思わず膝を打ちました。

ちなみにその先生とはいまだに平和を求める仲間としてお付き合いがあります。余談ですが、当時の若きイケメン先生もそろそろ定年を迎えられるのですが、ご本人いわく「あんなことばかりしてきたから干されっぱなしの教員人生でした」。

■マスク問題一つ解決できないのか！

平　信行さん（南区）

自粛要請に対して私たちも最大限協力し、行動変容に応えようとしています。ソーシャルディスタンディングに努め、マスクもちゃんとつけて、手の消毒も徹底しようと。ところが今もってマスクも消毒液も手に入りません。医療機関の感汚染防護資材不足も危機的状況のようですが、一般のドラッグストアでも品切れ常態がもう２ヶ月以上も続いています。

これだけ緊急事態なのに、国の仕事で生産と正常な流通状態を復活、確保することはできないのか。ドラッグストアのマスク品切れの棚を見る度に、政府の意欲のなさ、無能力さを感じてしまいます。マスク問題一つ解決できないのかと。

楽天などネットショッピングサイトを見ると結構マスクも並んでいます。ただしかなりの割高で。ネットショッピングサイトには商品が並ぶのに、一般の店舗にはどうして入荷しないのか。こういう不条理を政府の仕事として正すこともできないのか。４６６億円も使って一家庭に２つの布製マスクなんて、やることがとち狂っています。

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■　自衛隊も米軍も日本にはいらない　　花岡しげる　著

紹介　石角敏明さん（長岡京市）

花伝社 1500 円＋税

守田氏が、強調される「自衛隊を災害救助隊に編成し直せ」という主張を、そのまま展開されているのが「本書」である。（ひょっとして、共同著作では、と思ってしまう）ここでは「災害救助即応隊」（ジャイロ）という名称で提案されている。著者は、「戦後民主的な教育基本法」で学んできた国民が、改憲論者の国会議員を支持するのは「なぜ？」という問題意識から出発し、「自衛隊」の在り方そのものを提案されている。ここには「非武装中立」の日本ではなく、必要最低限の武装をした部隊（軍隊ではない）を持つが、この部隊の役割は「一番に災害救助」であるとする。「何故、日本が軍隊を持たなくても安全が保障されるのか？」は、具体的に事例をあげて紹介されており、自衛隊違憲論争に一石を投じられているのではないか。守田氏が、救助活動時の自衛隊の服装から「災害救助隊」の必要性を解かれるが、その視点もキチンと述べられている。ここには「新党」の提案も含め、具体的な提案がされており、決して「夢」物語ではないことがわかる。「護憲派」にとって弱いとされてきた「自衛隊を無くして、安保条約を破棄して日本の安全保障」をどうするのか？という問いかけにも耐えられる主張である、すこし国民を見下した表現が気になる部分はあるが、「九条」を守り発展させていくためにも耳を傾ける主張・提案である。

■　兵器を買わされる日本　　東京新聞社会部　著

紹介　石角敏明さん（長岡京市）

文春新書
880 円＋税込

あの「東京新聞社会部」が著者である。鋭い追及記事であることは間違いない、とは思っていたが。

「安倍首相」はトランプさんの「顔色」を伺う、と言われるが、トランプから見れば「日本・安倍さん」は上得意で、大事にすべき人かもしれない。「自分（米国）の要求を忖度して聞いてくれる世界でも稀な国・人である」ということがわかる。現場の自衛官さえも「要求しない、必要がない兵器」を米国の言いなりで買ってくれるし、購入後も「維持整備費」という項目でお金を払ってくれる。オスプレイの例を引き合いに出すまでもないが、自衛隊の武器購入の実態が赤裸々にえぐり出されて、怒りが湧きあがってくる。そして「防衛費予算」をめぐる印象操作ともいえるトリック。「補正予算」の役割を本書を読んで理解してほしい。莫大な防衛予算と言われるが「隊員はトイレットペーパーは、何センチと決められ、その後は自己負担」その原因は？しかし、沖縄県では・「辺野古」では沖縄県民にどのような仕打ちをしているのか。その背後には「安倍政権」の影が見え隠れする。国民には「消費税増税で負担を押し付けるが、米国には言いなりに武器を買う、そして他国のために基地を造る。」数字の表面だけを見ていてはわからないことが、丁寧に解説されている。現場の声を聞き、追及されてきた「新聞記者」ならでしか書けない内容です。今後の取材に期待を抱かせる内容大である。この新聞が「関西」で読めないのが残念です。

Scrap book

■夕凪の街」の世界へ
改札前にステンドグラス　広島アストラム本通駅

広島市西区出身の漫画家こうの史代さんの原爆をテーマにした作品「夕凪（ゆうなぎ）の街　桜の国」の世界にいざなう大型ステンドグラスが２９日、中区のアストラムライン本通駅改札前にお目見えした。新たなにぎわいを生み出そうと、広島高速交通（安佐南区）と日本交通文化協会（東京）が設置した。

こうのさんが原画を担当。桜が舞う中、ヒロインの皆実が原爆ドームを背景に川岸を歩く情景が描かれている。約８０色、計１４００ピースのガラスを組み合わせ、縦２・８メートル、横７メートル。ほんわかしたタッチが引き立つよう、裏側に照明を配した。

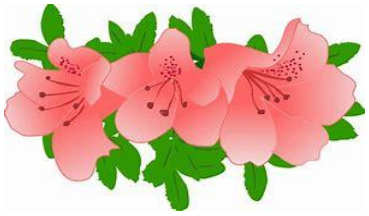
この日は改札前で除幕式があり、松井一実市長たちが出席した。こうのさんが「思い出深い本通駅に作品が飾られ、夢のような気持ち」と喜びを語ったビデオメッセージも流された。

同駅は原爆ドームの最寄り駅で、市民や観光客の利用が多い。平和の尊さや安らぎを感じてもらう狙いもあるという。買い物帰りに訪れた安佐南区の会社員近藤和美さん（４８）は「柔らかな色合いがきれいで、こうのさんの世界観が伝わる。これから通るのが楽しみ」と見入っていた。制作費は日本宝くじ協会が全額助成した。

（２０２０年３月１日　中國新聞）

編集後記

▼４月の例会は初めてＺＯＯＭを使って行いました。コロナの副産物ではなく、なかなか例会に参加できない人もいるので、少しでも参加できる条件を広げようという目的で準備してきたものです。初めてなのでどれだけの参加者があるのか分からないままのスタートでしたが、５名もの参加には正直驚きでした。はるかインドに居て参加した人、ちっちゃいお子さんを抱っこしながら参加した人、仕事が遅くなり職場からそのまま参加した人等々、さすがにネット会議の威力が十分発揮されたような例会となりました。ＺＯＯＭで参加された人たちの感想を掲載しました。ＺＯＯＭ会議は５月以降も続けていきます。パソコンやスマホを使われている方は是非ご参加ください。▼同じ日の例会では「新型コロナウィルス感染拡大対策問題」についても参加者同士率直な意見交換をし、その詳細も会報に掲載しました。それを読まれての感想、また日頃思っていることのご意見、是非お寄せ下さい。（平）

２０２０年５月　行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
５	１	金	メーデー　キンカン行動
	２	土	
	３	日	憲法記念日
	４	月	みどりの日
	５	火	こどもの日 立夏
	６	水	振替休日
	７	木	
	８	金	世界赤十字デー　キンカン行動
	９	土	６・９行動
	１０	日	母の日
	１１	月	
	１２	火	
	１３	水	原発賠償京都訴訟控訴審第７回弁論（大阪高裁）
	１４	木	京都「被爆２世・３世の会」例会（１８時３０分・ラボール京都）
	１５	金	沖縄返還記念日（１９７２年）　キンカン行動 葵祭（開催中止）
	１６	土	
	１７	日	
	１８	月	
	１９	火	安保法制の廃止をめざす集会とデモ
	２０	水	
	２１	木	*ビキニ環礁でアメリカ水盤実験（１９５６年）*
	２２	金	キンカン行動
	２３	土	
	２４	日	
	２５	月	
	２６	火	
	２７	水	
	２８	木	国際アムネスティ記念日
	２９	金	キンカン行動
	３０	土	消費者の日
	３１	日	世界禁煙デー